

コンフォックス ラップアップ クリーナー

除菌消臭剤



製品について

除菌消臭剤としてお使い下さい。スーパーマーケット、酪農場、学校、病院、老人ホーム、レストラン、肉/鶏食肉加工施設など、食品加工を行う環境に最適です。USDA(米国農務省)の規定に従い、無香料・無着色です。床、壁、食品加工器具や水の使えるすべての表面に使用できます。目立つ汚れのない表面に希釈液を噴霧し、自然乾燥させるだけで除菌ができます。鳥インフルエンザAウイルス(H5N1)、B型・C型肝炎ウイルス、ヒトコロナウイルス、ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)、インフルエンザAウイルス(H1N1)に有効です。

物理的および化学的性質

標準的なデータであり、製造過程において許容誤差が生じる場合があります。

成分	QUAT(第4級塩化アンモニウム)除菌消臭剤
状態	透明液体
臭気	低刺激性(無香料)
色	無色(無着色)
pH	6.8-7.5
pH@1%	6.9
活性分	10%
粘度	0-5cps.
りん含有率(%P)	0%
標準希釈倍率	1:512(1:160)
EPA登録番号	No.10324-63-3838 AOAC(公認分析化学者協会)有効性試験を通過し、ヒト・動物に対する抗菌活性、安全性、毒性の試験結果から、有害作用がないと認められた製品に限りEPA(米国環境保護庁)登録となります。
USDA	D2規格認証取得
NSF	D2規格認証取得 USDA(米国農務省)/NSF(米国衛生財団)D2: 常にすすぎを必要としないすべての表面に使用できる消毒剤

使い方

目立つ汚れのない表面に希釈液1:160(625ppm)をまんべんなく塗布し、自然乾燥させます。グラスや食器等は希釈液1:512(200ppm)に60秒以上浸してから、清潔なテーブル等の上に取り出して自然乾燥させます。食品と直に触れるものを除菌消毒する場合、活性成分の上限は200ppmです。洗い流す必要はありません。除菌消毒液は毎回ご使用前に希釈して下さい。

SDS (製品安全データシート)

1 化学物資等及び会社情報

【製品名】 コンフォックス ラップアップ クリーナー

【販売元】

会社名 株式会社ユニズンパートナーズ

住所 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南2-23-2 恵比寿NH第二ビル2階

電話番号 03-6432-5756

FAX番号 03-6459-3355

【製造元】

会社名 株式会社ジェイ・エス・ピー

住所 〒108-6028 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟28階

電話番号 03-6717-2760

FAX番号 03-6717-2762

緊急連絡先 公益財団法人日本中毒情報センター

大阪中毒 072-727-2499 (24時間/365日)

つくば中毒 029-852-9999 (9-21時/365日)

作成 2015年9月2日

改訂 ***

推奨用途 硬質表面(無孔質無生物面)の除菌、消毒および消臭

2 危険有害性の要約

【GHS分類】

皮膚腐食性/刺激性

● 区分1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

● 区分1

上記で記載がない危険有害性は分類対象外

または分類できない。

【GHSラベル表示】

[絵表示]



注意喚起語

危険

危険有害性情報

・皮膚腐食性

・眼に対する重篤な損傷性

【注意書き】

- 一 般
 - ・使用前にラベルをよく読むこと。
 - ・子供の手の届かないところに置くこと。
 - ・医学的な助言が必要な時には、製品容器やラベルを持っていくこと。

- 予 防 対 策
 - ・保護手袋及び保護眼鏡/保護面を着用すること。
 - ・必要に応じて個人用保護服を使用すること。
 - ・取扱い後はよく手を洗うこと。

- 応 急 措 置
 - ・吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい体勢で休息させること。ただちに毒物センターまたは医師に連絡すること。
 - ・飲み込んだ場合 直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 - ・皮膚(または髪)に付着した場合 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。
 - ・眼に入った場合 水で数分注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。

- 保 管
 - ・取扱い場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。

- 廃 棄
 - ・内容物/容器を国/都道府県/市町村の規則に従って許可を受けた産業廃棄物業者と契約して廃棄すること。

3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

成 分	%	CAS N α	PRTR No.
C12-14-アルキル[(エチルフエニル)メチル]ジメチルクロリド	1-5	85409-23-0	
アルキル(C=12-18)(ベンジル)(ジメチル)アンモニウム=クロリド	1-5	68391-01-5	

4 応急措置

目に入った場合	直ちに医師の診断/手当てを受けること。毒物センターまたは医師に連絡すること。直ちに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼を洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も10分以上洗浄を続けること。出来るだけ早く医師の診断を受けること。
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい体勢で休息させること。救助者は、状況に応じて、ヒュームやガスを直接吸入しないように、呼吸用保護具を着用する。呼吸困難を起こした場合は、衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で呼吸補助をする。人工呼吸、心臓マッサージなどの応急措置の教育は、日本赤十字社、消防署などに依頼することを推奨する。直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	汚染された皮膚を多量の水で洗うこと。汚染された衣類及び靴を脱ぐこと/取り除くこと。服を脱ぐ前に、汚染された衣類を多量の水で洗うこと、または保護手袋を着用すること。10分以上洗浄を続けること。皮膚刺激が生じた場合は医師の診断/手当てを受けること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。靴は再使用前に十分に洗浄すること。
飲み込んだ場合	直ちに医師の診断/手当てを受けること。直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。水で口をすすぐこと。入れ歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませないこと。医師の指示がない限り、吐かせない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つこと。意識がない場合、決して口からものを与えないこと。意識がない場合、回復体位(横向き寝)を取らせ、直ちに医師に診断/手当てを受けること。衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した状態に維持すること。

5 火災時の措置

消火剤	・ 火災に応じた消火剤を使用する
使ってはならない消火剤	・ 知られている限りなし
消火方法	・ 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。適切な防護具(耐熱性着衣など)を着用する。適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 ・ 容器は高温で圧力の上昇が起こり破裂することがある。

6 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	作業の際には、適切な保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護衣等）を着用する。適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。蒸気や噴霧の吸入を避ける。十分な換気を行う。
環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の 方法・機材	少量の場合は、吸着剤（おがくず・土・砂・ウエス等）で吸着させ空容器に回収する。大量の場合には、土砂等で困って流出を防止し、安全な場所に導いてから空容器に回収する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	<ul style="list-style-type: none">・換気の良い場所で取扱う。・皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らぬよう適切な保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護衣等）を着用する。・取扱後は手をよく洗うこと。・取扱いの都度、容器を密閉する。・取扱い場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加えまたは引きずる等の粗暴な取り扱いをしないこと。
保管	<ul style="list-style-type: none">・直射日光を避け、換気の良い冷暗所に密閉して保管する。・凍結のおそれのある場所には置かないこと。・容器は破損、腐食、割れ等のないものを使用する。

8 暴露防止及び保護措置

設備対策	・全体換気装置は作業者が暴露される空中浮遊物質濃度の管理に十分なものを使用する。
【保護具】	
呼吸器の保護具	・密閉された箇所での取扱い時は、保護マスクを着用する。
手の保護具	・耐化学品性で不浸透性の保護手袋を着用する。
目の保護具	・保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	・長袖作業着、保護服などを着用する。

9 物理的及び化学的性質

【外 観】

物理的状态	液体
色	透明(無着色)
臭い	原料臭(無香料)
臭閾	データなし
pH	7-8
融点	0°C
沸点	100°C
引火点	密閉式:>93.334°C
蒸気速度	データなし
燃焼性(個体、気体)	データなし
爆発(燃焼)限界の上限および下限	データなし
蒸気圧	<4 kPa (<30 mm Hg) [室温]
蒸気密度	<1 [Air=1]
比重	0.99 g/cm ³
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分係数	データなし
自然発火温度	データなし
粘度	データなし
VOC含有率	<1%

10 安定性及び反応性

安定性	・ 安定である。
反応性	・ データなし
危険有害反応可能性	・ 通常の保管及び使用条件においては危険有害な反応はない。
避けるべき条件	・ データなし
避けるべき材料	・ データなし
危険有害な分解生成物	・ 通常の保管及び使用条件においては危険有害な分解生成物の生成はない。

11 有害性情報

【急性毒性】

製品/成分の名称	結果	試験種	投与量	投与時間
C12-14-アルキル[(エチルフェニル)メチル]ジメチルクロリド	LD50経皮	ラット	>2000 mg/kg	—
	LD50経口	ラット	507 mg/kg	—

感作性	} ・データなし
変異原性	
発がん性	
生殖毒性	
催奇形性	
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	
吸引性呼吸器有害性	

12 環境影響情報

生態毒性	・データなし
残留性/分解性	・データなし
生態蓄積性	・データなし
残留性/分解性	・データなし
土壤中の移動性(Koc)	・データなし
他の有害影響	・重大な影響または危険有害性は知られていない。

13 廃棄上の注意




残余廃棄物

廃棄物は可能な限り少なくすること。使用残の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託すること。量の多少に関わらず、管轄当局の要件に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流さないこと。公共水域などへの排出は絶対に避けること。

汚染容器・包装

不要な包装材料は可能な限り再利用すること。空の容器及び内袋に製品が残留することがあるので注意すること。空の容器及び内袋を廃棄する場合は、内容物を完全に除去してから、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託すること。

14 輸送上の注意

	DOT分類 米国運輸省危険物規制	IMDG 国際海上危険物規程	IATA 国際航空運送協会 危険物規則書
国連番号	UN1903	UN1903	UN1903
国連輸送名	Disinfectant Liquid Corrosive.N.O.S. (Quaternary Ammonium Compound)	Disinfectant Liquid Corrosive.N.O.S. (Quaternary Ammonium Compound)	Disinfectant Liquid Corrosive.N.O.S. (Quaternary Ammonium Compound)
危険等級	8 	8 	8 
容器等級	III	III	III
海洋汚染物質	No.	No.	No.

輸送の特定の
安全対策及び条件

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。輸送作業は取扱い及び保管上の注意事項を留意して行う。

15 適用法令

PRTR法:第一種指定化学物質
PRTR法:第二種指定化学物質
労働安全衛生法/有機溶剤中毒予防規則
労働安全衛生法/通知対象物
毒物及び劇物取締法

・該当なし

16 その他の情報

参考文献

- ・GHS対応ガイドライン(社団法人 日本化学工業協会)
- ・NITE化学物質総合情報提供システム
(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ・MSDS提供者:Essential Industries,Inc.

その他

本文書の記載内容は、当社の最善の調査に基づいて作製しておりますが、記載したデータや評価に関しては、必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性があり得ますので、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さるようお願い致します。